

ルビ

佐藤 健治

kenjisato.jp

2021 年 3 月 19 日

八登崇之氏による **pxrubrica** パッケージを用いてルビおよび圏点を利用したサンプルです*¹。このドキュメントの作成には LyX を使用しました。**pxrubrica** パッケージを便利に使うためのカスタムモジュール **pxrubrica.module** を GitHub レポジトリ **kenjisato/lyx.local** で公開していますので、インストールして利用してください。カスタムモジュールのインストール方法は公式ドキュメントをご覧ください。上記レポジトリのトップにも記載しています。なお、この資料のソースファイルは前述のレポジトリの **demo/ruby.lyx** です。

ルビのオプションの振る舞いについては、**pxrubrica** パッケージのドキュメントを確認してください。オプションを使った例は次のようなものです*²。

- `\ruby[g]{百舌鳥}{もず}` : 百舌鳥
- `\ruby[j]{百舌鳥}{もず}` : 百舌鳥

和文両側ルビ、欧文両側ルビの Flex Inset も一応用意していますが、使用頻度が少なく邪魔に感じる人が少なくなさそうなので、そのうち別モジュールに分けるかもしれません。和文両側ルビの使用例です*³ : 北京, 百済

注意

生成される LaTeX のソースコードに関する注意点です。**pxrubrica** パッケージの `\ruby` (あるいは `\jruby`) , `\aruby` コマンドは、次の形式で使用されます。

`*ruby[<オプション>]{<親文字>}{<ルビ文字>}`

LyX で Flex Inset を折りたたんだときに表示されるのは最後のパラメータなので*⁴ , 編集するときには最後のパラメータが親文字である方が望ましいです。そこで、**pxrubrica.module** では、パラメータの順序を入れ替えたコマンド

`*rubySwap[<オプション>]{<ルビ文字>}{<親文字>}`

を定義しました。生成される LaTeX コードを汚してしまうのですが、編集上の便利さを選択しました。

*¹ 八登崇之「**pxrubrica** パッケージ」v1.3d (2021/03/06), <http://tug.ctan.org/language/japanese/pxrubrica/pxrubrica.pdf>.

*² オプション入力欄を出すには、Ctrl+A を入力した後に 1 を押す。

*³ 組版コラム Dr. シローの覚え書き, 259. 両側ルビより (2021 年 3 月 19 日閲覧)。

*⁴ `ContentAsLabel` は真に設定されています。